

地域再生シンポジウム2021 in 飛騨

広葉樹活用による地域再生

～いま地域に求められること～



【シンポジウム】 参加費無料 ※要事前申し込み

2021年 **11月16日**(火) 【場所】 飛騨市文化交流センター スピリットガーデンホール
13:00～17:00(開場12:30) 【定員】 350名(定員を1/2以下に制限して開催します)

● 会場ホワイエでは、ポスター展示、木製品等の展示も行います。(11時～18時)

【エクスカーション(現地検討会)】 昼食代:1,000円/人 ※ 初日の会場受付にて申し受けます。

2021年 **11月17日**(水) 【行程】 Aコース:「飛騨市広葉樹のまちづくり」探求
8:30～15:00 Bコース:「飛騨の家具®」の現場めぐり
【定員】 各コース50名(各コース2班編成にて実施します)



主催:(国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 / 飛騨市
後援:林野庁 中部森林管理局 / 岐阜県森林組合連合会 / 飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアム

2021年 **11月16日(火)** 【場所】 飛騨市文化交流センター スピリットガーデンホール
13:00～17:00(開場12:30) 【定員】 350名(定員を1/2以下に制限して開催します)

<シンポジウム スケジュール>

13:00～	あいさつ 主催者代表：(国研)森林研究・整備機構 理事長 中静(浅野) 透 開催地代表：飛騨市長 都竹 淳也
13:10～	基調講演 演題：『持続可能な広葉樹施業の経済性を考える』 ～針葉樹と同じ土俵で考えてみた～ 講師：宇都木 玄 氏 ((国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所研究ディレクター)
13:50～	テーマセッション セッション①【森づくり】 《テーマ》皆伐に頼らない持続可能な広葉樹林業の可能性 (ゲストスピーカー) 新田 克之氏 (飛騨市森林組合 林産課長 森林施業プランナー) 落部 弘紀氏 (東近江市永源寺森林組合 課長 森林施業プランナー) 横井 秀一氏 (造林技術研究所 代表／飛騨市広葉樹のまちづくり推進アドバイザー) (モデレーター) 横井 秀一氏 ※兼務
14:30～	セッション②【ものづくり】 《テーマ》ものづくりと地域づくりの関係性 (ゲストスピーカー) 佐々木一弘氏 (オークヴィレッジ株式会社 商品開発部長 プロダクトデザイナー) 久津輪 雅氏 (岐阜県立森林文化アカデミー 教授) (モデレーター) 松本 剛氏 (株式会社飛騨の森でクマは踊る 代表取締役COO)
15:10～	休憩(20分)
15:30～	セッション③【仕組みづくり】 《テーマ》広葉樹の価値を高めるために求められる流通 (ゲストスピーカー) 嶋瀬 拓也氏 (森林総合研究所北海道支所 地域研究監) 及川 幹氏 (飛騨市広葉樹活用コンシェルジュ) (モデレーター) 垂水 亜紀氏 (森林総合研究所四国支所 流域森林保全研究グループ長)
16:10～	セッション④【広葉樹による地域再生】 《テーマ》広葉樹を活かすために地域に求められること (ゲストスピーカー) 紙谷 智彦氏 (新潟大学名誉教授／フェロー(特別研究員)) 都竹 淳也氏 (飛騨市長) (モデレーター) 中村 幹広氏 (岐阜県東濃農林事務所 林業課長)
16:50～	総括 公益財団法人 国際緑化推進センター 技術顧問 田中 浩氏
17:00	閉会

● 会場ホワイエでは、ポスター展示、木製品等の展示も行います。(11時～18時)

【エクスカーショ(現地検討会)】 昼食代:1,000円／人 ※ 初日の会場受付にて申し受けます。

2021年 11月17日(水) 【行程】 Aコース:「飛騨市広葉樹のまちづくり」探求
8:30~15:00 Bコース:「飛騨の家具®」の現場めぐり
【定員】 各コース50名(各コース2班編成にて実施します)

【Aコース】「飛騨市広葉樹のまちづくり」探求

集合場所:飛騨市役所前 8:30集合(終了予定15:00)

<見学場所> (班により回り方が変わります)

- 1)「飛騨市広葉樹のまちづくり」レクチャー
市役所応接室見学(約1時間)
- 2)「価値の高い広葉樹の森づくり」見学・説明(約1時間)
※昼食(約1時間15分)
- 3) 広葉樹専門製材所見学・説明(約1時間)
- 4) FabCafe Hida見学・説明(約1時間15分)

【Bコース】「飛騨の家具®」の現場めぐり

集合場所:高山駅西口(白山口)前 8:30集合(終了予定15:00)

<見学場所> (班により回り方が変わります)

- 1) 飛騨の家具®製造現場見学
①(飛騨産業株式会社)(約1時間30分)
- 2) 広葉樹乾燥見学・説明(株式会社カネモク)(約1時間)
※昼食(約1時間15分)
- 3) 飛騨の家具®製造現場見学
②(オークヴィレッジ株式会社)(約1時間15分)

※各コースとも2班に分かれて別行程で回ります。当日の詳細なスケジュール等は、参加者様に個別にご連絡いたします。



《講師・スピーカー・モデレータの皆さまのご紹介》

基調講演 『持続可能な広葉樹施業の経済性を考える』～針葉樹と同じ土俵で考えてみた～



1966年生まれ。大学では登山に明け暮れ、サルの生態を研究。1992年森林総合研究所に入所、2000年より北海道支所で森林の二酸化炭素収支について研究。その後ヤナギを用いた木質資源によるバイオマス育成技術、伐採造林の一貫作業による造林作業の効率化、林業用樹種に対する充実種子選別技術等を研究。海外ではフィリピンで熱帯樹種の葉の生理特性、オーストラリアで乾燥地植林、タイのマングローブ林の生態研究等にも従事。2018年に現職となり、近年はわが国のこれからの森林施業の道筋をつけていくため、将来の目標林型を見据えた施業方針の明確化や、低コストの施業技術の方向性等について提案中。

(主な実施プロジェクト)

攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「コンテナ苗を活用した低コスト再造林技術の実証研究」(2014～2015 生研センター) / 革新的技術開発・緊急展開事業「優良苗の安定供給と下刈り省力化による一貫作業システム体系の開発」(2016～2018 生研センター) / 戦略的プロジェクト研究推進事業「成長に優れた苗木を活用した施業モデルの開発」(2018～現在 農林水産技術会議)

◆宇都木 玄氏
(国研)森林研究・整備機構
森林総合研究所研究ディレクター

セッション①【森づくり】 皆伐に頼らない持続可能な広葉樹林業の可能性



スピーカー
◆新田 克之氏
飛騨市森林組合 林産課長 森林施業プランナー

1974年生まれ、飛騨市出身。15年間、現場での伐採業務に従事したのち、林産事業の取り組み開始と同時にその中心的役割を担い事業を差配。令和2年度より現職。
人工林率が低い飛騨市にあってその生産性は主伐で9.40 m³ (広葉樹含)、間伐で9.75 m³ (ともに1日1人当たり※R2実績)を誇る。
広葉樹施業にも精通し、多様な広葉樹の価値を最大限活かすため、ユーザーの希望に応じて規格にとらわれないきめ細やかな対応を行うなど、飛騨市広葉樹のまちづくりを強力に牽引するプレイヤーの一人。



スピーカー
◆落部 弘紀氏
東近江市永源寺森林組合 課長 森林施業プランナー

1977年生まれ、島根県出身。滋賀県立大学環境生態学科で植物生態学を専攻し、その後、林業を学ぶため岐阜県立森林文化アカデミーに入学。その後、東近江市永源寺森林組合にて森林施業プランナーとして林業に従事。スギ、ヒノキ人工林における集約化施業だけでなく、広葉樹林においても補助金を活用した更新伐施業を積極的に実施し、伐採した多種多様な広葉樹材について、有効利用できるよう製材加工の取り組みも実践。



スピーカー兼モデレータ
◆横井 秀一氏
造林技術研究所 代表
飛騨市広葉樹のまちづくり推進アドバイザー
1960年生まれ、愛知県出身。元岐阜県職員。在職中の所属は、森林研究所(前身を含む)と森林文化アカデミー。研究所時代の主なテーマは、用材生産のための広葉樹林施業、針葉樹人工林長伐期施業における樹冠管理技術、多雪地のスギ不成績造林地の修復。森林文化アカデミーでは、主に林業全般と造林技術に関する教科を担当。退職後は、造林技術研究所を主宰し、造林分野の技術指導・技術相談に勤しむ。

セッション②【ものづくり】 ものづくりと地域づくりの関係性



スピーカー
◆佐々木一弘氏
オークヴィレッジ株式会社商品開発部長
プロダクトデザイナー

大学卒業後、木工修行を経て1996年オークヴィレッジ入社。以来一貫して造り手の立場から国産材を用いたプロダクトのデザインに携わる。近年は自治体等と地域森林資源を活用したモノ造りを核にした地域活性化プロジェクトに携わる。日本文化に根ざし高度な木工技術で製作したペンケース「TANTO:」でreddot design award(ドイツ)、名刺ケース「INRO:」でiF design award(ドイツ)、また、森林整備の過程で伐り出される広葉樹を、林業、製材業、木工業三者が連携することで材料化に成功した「根尾の広葉樹活用プロジェクト」で2015年度 good design 賞受賞。群馬県みなかみ町から自伐型林業により伐り出される小径広葉樹を活用した「Mori:to チェア」で2020年ウッドデザイン賞受賞。他受賞多数。



スピーカー
◆久津輪 雅氏
岐阜県立森林文化アカデミー教授

1967年生まれ、福岡県出身。NHKで報道番組ディレクター、イギリスで家具職人を経て現職。長良川鶴飼の鶴籠、鶴飼舟、岐阜和傘など伝統工芸の材料確保、人材育成に携わる。里山の木を活かし、生木のまま手道具で削って小物や家具を作る「グリーンウッドワーク」の第一人者。講座の開催、道具の開発、指導者育成、海外交流などを行う。著書『グリーンウッドワーク』『ゴッホの椅子』。



モデレータ
◆松本 剛氏
株式会社飛騨の森でクマは踊る 代表取締役COO

環境事業会社勤務を経て、2009年、株式会社トビムシ設立に参画。2015年、飛騨市と株式会社トビムシと株式会社ロフトワークで「株式会社飛騨の森でクマは踊る(通称:ヒダクマ)」を設立、取締役就任。2016年、滞在型ものづくりカフェ「FabCafe Hida」をオープン。2019年より現職。「飛騨市・広葉樹のまちづくり学校」オーガナイザー兼モデレーター、筑波大学山岳科学学位プログラム非常勤講師等も務める。

セッション③【仕組みづくり】 広葉樹の価値を高めるために求められる流通



スピーカー

◆嶋瀬 拓也氏

森林総合研究所北海道支所 地域研究監

1971年滋賀県生まれ。北海道大学農学部、慶應義塾大学経済学部卒。博士（農学）。1996年森林総合研究所採用後、2018年林野庁を経て2020年より現職。主な研究テーマは比較木材産業史。木材産業の発展にみられる地域差や、その差が生じる要因を経済学の視点から読み解き、そこから林業・木材産業の現在と将来を展望。詳しくは大日本山林会『山林』2021年1～6月号所収の連載記事を参照。



スピーカー

◆及川 幹氏

飛騨市広葉樹活用コンシェルジュ

1993年千葉県茂原市生まれ。大阪大学文化人類学専攻を卒業後、西垣林業株式会社に入社。広葉樹の森が有する可能性と、飛騨地域の土地柄に惹かれ、2020年4月より、飛騨市地域おこし協力隊、広葉樹活用コンシェルジュに着任し、現在に至る。需要と供給のマッチングを通じ、多種多様な広葉樹の森に合った、柔軟な流通の構築を目指す。



モデレータ

◆垂水 亜紀氏

森林総合研究所四国支所 流域森林保全研究グループ長

愛媛県生まれ。愛媛大学大学院連合農学研究科修了。博士（農学）。2003年森林総合研究所林業経営・政策研究領域採用。主な研究テーマは山村振興。その後四国支所では、高知県仁淀川流域での地域資源循環活用による定住促進プロジェクト、関西支所では近畿の広葉樹をむだなく使うプロジェクトなどを担当。再び四国支所に戻り、現在の広葉樹に関するテーマは備長炭の持続的な生産・流通。

セッション④【広葉樹による地域再生】 広葉樹を活かすために地域に求められること



スピーカー

◆紙谷 智彦氏

新潟大学名誉教授／フェロー（特別研究員）

1952年富山県生まれ。専門は森林科学、森林生態学。20代の4年間は宮崎の飢肥杉人工林を伐採する事業所主任や佐賀県の民有林業務などを経験。その後、新潟大学で豪雪地ブナ林の再生などを研究。定年退職前に薪炭ブナ林の育成と持続的利用を目的としたスノービーチ【雪国のブナ】プロジェクトを立ち上げ、現在も世話人として活動。新潟県森林審議会会長。福島県只見町ブナセンター非常勤館長。



スピーカー

◆都竹 淳也氏

飛騨市長

1967年飛騨市古川町生まれ。筑波大学社会学類卒業後、1989年に岐阜県庁に入庁。その後、自治体国際化協会シンガポール事務所所長補佐や知事秘書、障がい児者医療推進室長などを歴任。2015年に県庁を退職。翌2016年、飛騨市長選挙で初当選し、現在2期目。趣味は音楽鑑賞。休日のはのびり音楽を聴いたり、本を読んだりして過ごす。好きな言葉は「日日是好日（にちにちこれこうじつ）」。



モデレータ

◆中村 幹広氏

岐阜県東濃農林事務所 林業課長

岐阜県庁入庁後、本庁林政部及び企画部、森林文化アカデミー、飛騨市役所（初代林業振興課長として出向）などを経て2021年より現職。効率的な木材生産体制の構築や林業先進国（ドイツ・オーストリア・スイス）との海外連携、産学官が連携するコンソーシアムの設立など、幅広い分野で様々なスタートアッププロジェクトに携わる。森林総合監理士（登録番号 20140637）／岐阜県フォレスター協会理事兼事務局長。

総括



◆田中 浩氏

公益財団法人 国際緑化推進センター技術顧問

1959年神奈川県生まれ。大学では最初西洋史学を専攻したが、森林に関わりたという思いから、林学に転向。森林総合研究所（当初は林業試験場）で広葉樹林の生態学研究に取り組む。北茨城の小川群落保護林を長期に渡って観測するとともに、タイ熱帯季節林の動態、人工林の広葉樹林化、森林の生物多様性、低コスト再造林などのプロジェクトに携わる。森林総合研究所研究担当理事を退任後、（一社）日本森林技術協会理事を経て現職。

趣旨・目的

戦後日本では、高度経済成長期に急増した木材需要に対応するため、真っすぐに生長が早く加工しやすい針葉樹が利用の中心となり、森づくりや木材生産・加工などの様々な技術開発・研究が進められてきました。一方、かつて頻繁に利用された身近な広葉樹は、木材輸入自由化とエネルギー革命などの時代の流れから「雑木」と言われるほどその価値は大きく低下し、広葉樹林の管理・育成や、伐採、加工などに関する技術や知識、ノウハウは日本から徐々に失われてしまいました。そんな中、コロナ禍に端を発する世界的な木材需要の増加により広葉樹も含め日本への木材供給が減少し、価格の高騰や在庫不足を招くなどの問題が顕在化しました。輸入材に頼った日本の木材流通の仕組みは、持続可能な観点から大きな課題を有していることが改めて明らかになりました。本シンポジウムは、こうした背景や 2015 年 9 月の国連総会採択により示された持続可能な開発目標(いわゆる SDGs)への世界的な取り組みも踏まえ、国産広葉樹への回帰を通して持続可能な地域を実現するために今必要な取り組みについて、専門家からの示唆を元に参加者全員が自分事として改めて考えなおすことを目的とします。

お申込先及び方法

別紙申込書に必要事項を記入の上、開催事務局まで郵送、FAX、メールのいずれかにより提出いただくか、専用の申込フォームからお願いいたします。

申込フォーム



申込期限：2021 年 11 月 10 日(水)

※シンポジウム、エクスカージョンともに定員に達し次第受付を終了いたします。

※お電話によるお申込は承っておりません。

※お申込いただいてから3日以内に(土日祝日含まず)申込様宛てに確認メールをお送りします。3日経ってもメールが届かない場合はお手数ですが開催事務局までお問い合わせください。

※コロナ禍に伴い、参加者及び参加人数の管理を行うため事前申込の無い方は参加できません。また、申込後都合により参加をキャンセルされる場合は必ずその旨ご連絡をお願いいたします。

※新型コロナウイルス感染症の状況により、開催方法の変更または延期・中止となる場合がありますのであらかじめご了承ください。

【新型コロナウイルス感染防止のためのお願い】

- ・入場の際は、入口に設置する消毒液による手指消毒、非接触型体温計による体温測定にご協力をお願いいたします。
- ・37.5 度以上の発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻づまり、味覚・嗅覚障害、関節・筋肉痛、下痢、嘔気等の症状がある場合は入場できません。
- ・会場内ではマスクを常時着用し、会話は極力お控えください。
- ・緊急時は係員の指示に従ってください。



お問い合わせ先(開催事務局): 飛騨市役所農林部 林業振興課
〒509-4292 岐阜県飛騨市古川町本町2番22号
☎ 0577-62-8905(ダイヤルイン)
✉ hida.symposium2021@gmail.com(シンポジウム専用アドレス)